

早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム

大学の世界展開力強化事業 タイプB-1



本構想は、早稲田大学創設者の大隈重信が掲げていた「**東西文明の調和**」という理想に基づき、今後の国際社会において強いリーダーシップを発揮する人物を育成するプログラムである。米国の東海岸3大学と西海岸2大学の5大学との協働教育により、本学学部生のみならず米国の学部生を将来の世界のリーダーに育てる。

プログラムの目的・養成する人材像

現在・今後のグローバル化の特徴

アジアの台頭によって、これまでの西洋中心の世界から、東洋と西洋が1:1の世界になりつつある。こうした世界において、グローバル・リーダーとなる者は、東洋と西洋の両方の歴史・文化・社会を熟知し、その価値観を理解し、それらを互いに尊敬・配慮したうえで、優れた判断や意思決定を行うことが求められる。

育成する人材像

「東西文明の調和」のスピリットをもったグローバル・リーダー

東洋と西洋の両方の歴史・文化・社会等の知識

全世界に共通する高貴な価値観 勇気・奉仕・貢献

知的能力・コミュニケーション能力・人間力

世界中の様々な問題を自ら提示し解決する
国際機関・各国政府・ビジネス界・アカデミクス等
各界で卓越したリーダーシップを発揮できる人物

4年間のカリキュラム



全学の新生をを対象として日本・米国、東洋・西洋の歴史・文化・社会に関する講義を英語で提供



10月に成績・語学力・日英の二言語による論文試験等により、全学の新生から12名の候補者を選考



東洋・西洋の古典の講読、日本の歴史・文化に関する講義、並びに英語力とアカデミックスキルの訓練



通常の勉学のほか、リーダーシップ論の講義の受講
自ら国際機関・現地企業でのインターンシップに参加



本学学生12名と米国学生12名の
日米共同ゼミへの参加
グローバル・ 이슈の解決をテーマ
本学・米国相手校教員による共同指導



日米共同ゼミの成果について英語による卒業論文を執筆、国際会議などで発表

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

プログラム合同推進委員会

関係教職員により、単位の相互認定、成績管理の方法、科目の設置を審議する。

プログラム評価委員会

日米の有識者による第三者組織で、教育効果の検証・目標達成度の評価を実施する。

教育内容の可視化・成果の普及

シラバス・成績評価の可視化

シラバスを作成の上、成績評価の方法の明示、各科目の共通項目として「授業概要」、「授業の到達目標」、「成績評価方法」を明記する。

学内における成績評価基準の統一を実施する。

プログラムの普及

英語による科目の講義や招聘教員の講義を全学学生に公開するほか、「グローバル・リーダーシップ」副専攻を新たに設置し、全学学生に公開する。

学生の派遣・受入を促進するための環境整備

派遣学生及び留学生へのサポート

留学センターが、留学生の在籍管理、修学・生活・学生寮、インターンシップ等の支援を行い、派遣学生に対しては、留学前の準備教育から帰国後のフォロー教育まで、ワンストップのサポート体制を整備する。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H24年入学者より12名の学生グローバル・トップリーダー候補者を選考し、H25年より毎年米国に派遣する。

外国人留学生の受入れ

H26年より米国相手校より12名の学生を受入れ、本学の留学を終えた学生と日米共同ゼミを作る。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	-	-	12	12	12
受入	-	-	-	12	12